

大原社会問題研究所五十年史

Ⅴ 戦後

高野文庫(大阪)設立さる

前所長高野岩三郎博士の没後五年をむかえ、博士の労働者教育や労働運動に対する大きな功績を記念する事業の一つとして労働者図書館「高野文庫」を東京と大阪に設置しようという計画が門下生を中心にすすめられた。次にその設立趣意書をかかげるが、大原研究所もこの企てに積極的に賛成し、基金の一部として五、〇〇〇円を寄附した。

高野文庫設立趣意書

高野岩三郎博士は、日本に社会思想を普及せられた先覚者の一人であります。かねて労働者教育に着目せられ、身を以てこの困難なる業に当られました。博士が東京帝国大学教授から大阪の大原社会問題研究所長として来阪せられまするや、先づ労働者教育講座を開かれ、次で大阪労働学校の経営委員長として十年近く労働者教育に尽力せられ、日本の社会運動、労働運動に残された功績は今日に至っても燦として輝いているのであります。

生前先生が経営委員長として最も力を入れられた大阪労働教育会館は不幸戦災をうけて焼失しましたが、敷地六十五坪五合は焼跡のまま残って居ります。今回関係者の間で相談の上、これを売却し、その代金約三十万円を基金とし、これに有志者の資金を集めまた適当なる冊子の寄贈を希って、一般勤労大衆のための図書館『高野文庫』を東京と大阪に設置したいと存じます。

高野先生の日本労働教育に注がれた熱情と御意志とを永遠に記念するため、何卒本文庫の設立に御協力下さいます様切望いたします。

昭和二十九年四月十五日

高野文庫設立発起人

河上文太郎

三輪寿壮

河野密

森戸辰男

大内兵衛

細野三千雄

平貞蔵

松沢兼人

井上良二

こうして、大阪労働教育会館敷地の売却代金と寄附金を基金として、まず大阪に高野文庫が設立された。文庫の所在地は大阪市東区京橋三ノ三五、大阪府立労働会館である。

なお、東京でも高野文庫を設置する計画であったが、それはこの時実現しなかった。しかし一九六九年にいたって、日本統計研究所および法政大学図書館に保管してあった高野博士の旧蔵書を一緒にし、その他の遺品等をふくめ、大原研究所内に「高野文庫」を設置する計画がすすめられた。(これについては後に改めて記述する)。

一九五五年にはいつて、研究所の調査研究活動および原資料整理事業もようやくその成果を刊行物の形で世に問う段階にいたった。すなわち、年々刊行の『日本労働年鑑』のほか、この年には次のような刊行物を出した。

(一)「婦人運動史資料」第一集『労働組合婦人部設置をめぐる論争と「婦人同盟」関係資料』(一九二六―二八年)―評議会系の労働組合および日本農民組合内における婦人部設置をめぐる論争と、設置された婦人部の活動状況、さらに「婦人同盟」関係の資料を収録したもの。

(二)「農民運動史資料」第一号『所蔵資料目録』(第一分冊)―これは農民組合関係原資料を整理し、カードを作成する作業の中でつくられた目録の一部を謄写印刷したものの。

(三)『失業者の存在形態』―一九五四年秋に研究所の実施した福島県常盤地方の石炭産業失業者実態調査を中心に研究した結果をとりまとめたもの。この年に原稿を書きあげ、五六年三月に東洋経済新報社から刊行された。

この年、人事面に若干の移動があった。すなわち、一名欠員になっていた理事に、大内兵衛法大総長が就任した。また富塚照代職員が退職し、かわって松井逸子さんが入所した。

研究所の経費は、物価・賃金の騰貴を反映して次第に増加し、五五年度の決算書によれば、歳入金のうち法政大学寄附金は五二九万円、文部省補助金三五万円、水産庁委託調査費一五万円、経済企画庁委託調査費一〇万円その他合計六二三万九、八九四円となった。

法政大学大原社会問題研究所五十年史
発行 1970年11月
編・発行法政大学大原社会問題研究所

[前のページ](#)← [法政大学大原社会問題研究所五十年史【目次】](#) → [次のページ](#)

[研究活動・刊行物](#) [OISR.ORG全文検索](#)

[法政大学大原社会問題研究所\(http://oisr.org\)](http://oisr.org)
